

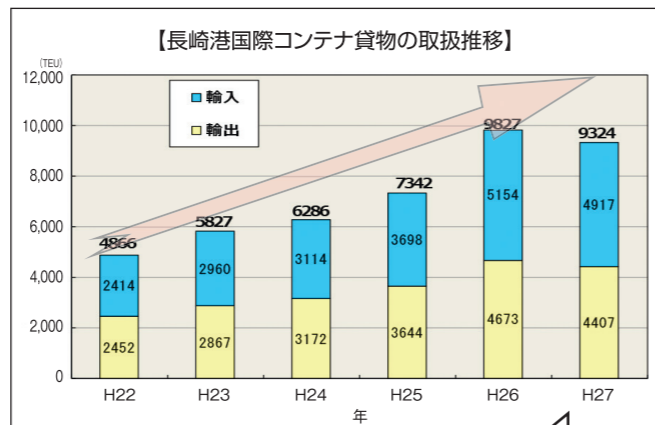
長崎港は、元龜2年(1571年)に開港、その後1636年の出島の完成により国内唯一の貿易港となるなど、常に世界と向き合い、近代日本を牽引してきました。

現在の長崎港では、経済成長が著しい東アジアとの地理的優位性から、クルーズ船が急増するとともに、国際貨物の取扱量も増加しています。

このため、松が枝国際観光船埠頭では、大型化するクルーズ船に対応した既存岸壁の延伸工事を行っています。

一方、県内唯一の国際コンテナ埠頭である長崎港小ヶ倉柳埠頭では、コンテナの積込・積卸作業の効率化のため、今月ガントリークレーンを設置しました。

県では、このクレーン稼働により、さらなる貿易拡大を図っていく予定です。



輸出は、古紙、機械、中古機械など
輸入は、船舶資材、果実缶詰など

県内初!

先端を上げるとまさに
キリンのよう!

作業速度が向上
作業時の揺れが低減

<After>

- ・コンテナ取扱本数は、1時間あたり40本。
- ・大型コンテナ貨物も取扱可能に。(クレーン能力35t→40t)
- ・精密機械も取扱可能に。



ガントリークレーン

<Before>

- ・コンテナ取扱本数は、1時間あたり20本。
- ・取扱貨物に制約あり。

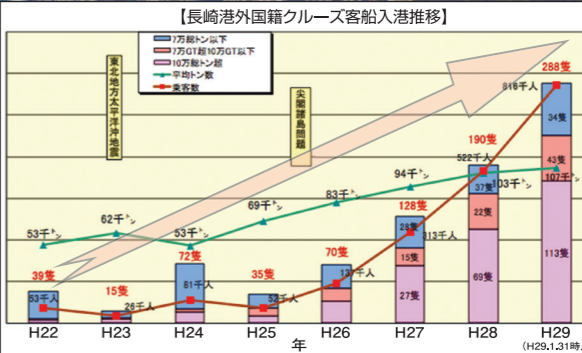
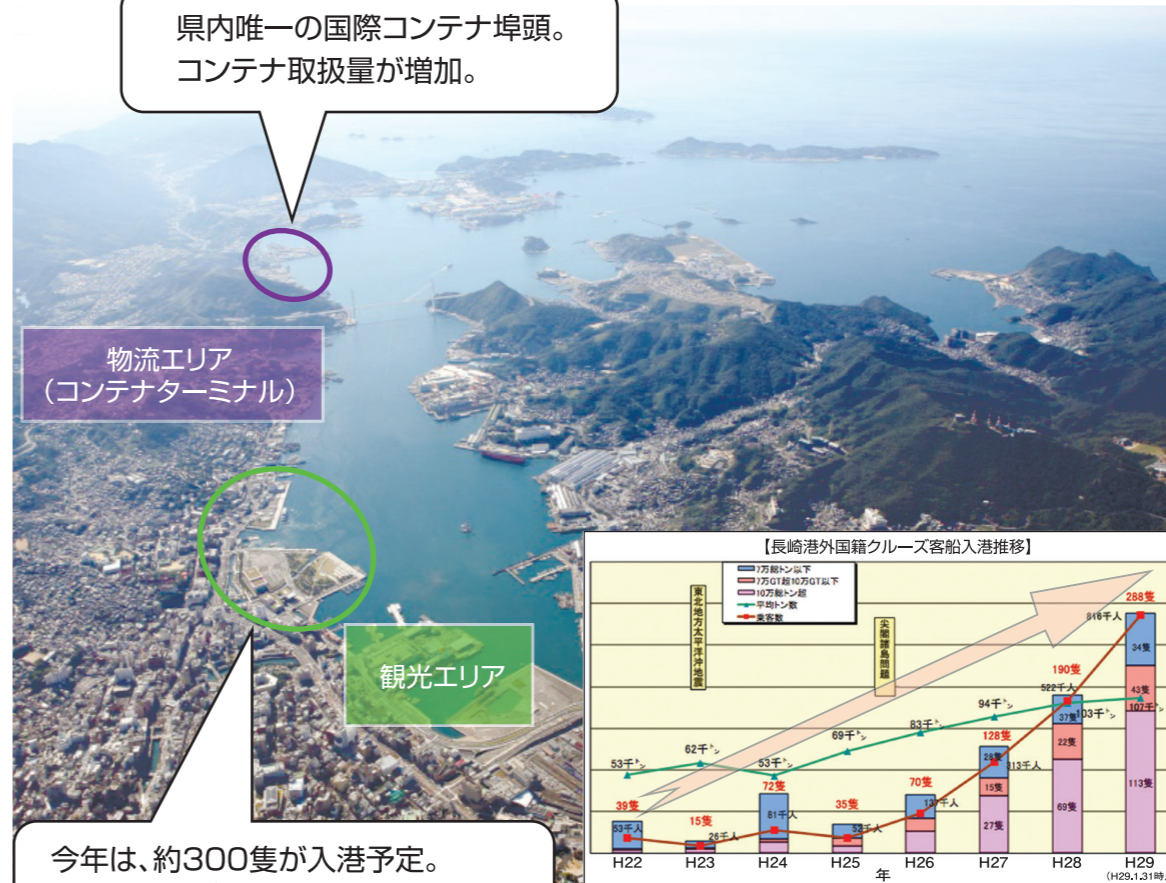


タイヤマウント式クレーン

県内唯一の国際コンテナ埠頭。
コンテナ取扱量が増加。

物流エリア
(コンテナターミナル)

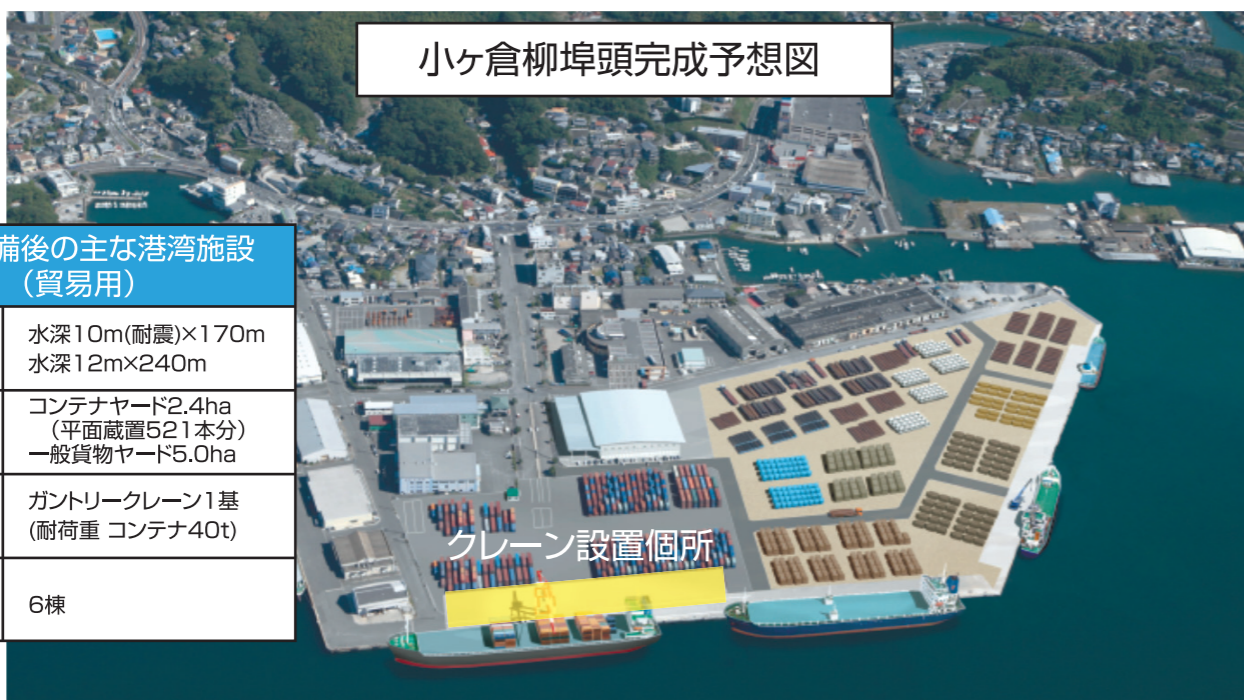
観光エリア



今年は、約300隻が入港予定。
客船の8割が、国内で最初に入港するファーストポートとして長崎港を選択しています。

現在、受入環境改善のため、既存岸壁の延伸工事中。
平成30年度供用開始予定です。

小ヶ倉柳埠頭完成予想図



拡充整備後の主な港湾施設
(貿易用)

岸壁	水深10m(耐震)×170m 水深12m×240m
埠頭用地	コンテナヤード2.4ha (平面積置521本分) 一般貨物ヤード5.0ha
コンテナクレーン	ガントリークレーン1基 (耐荷重 コンテナ40t)
貨物保管用上屋	6棟

クレーン設置個所

長崎港の利便性向上により、県産品の輸出拡大を図る!

